

交通基盤部道路局 事後評価 箇所一覧



(事後)一般国道473号
相良バイパス

【事後評価案件】

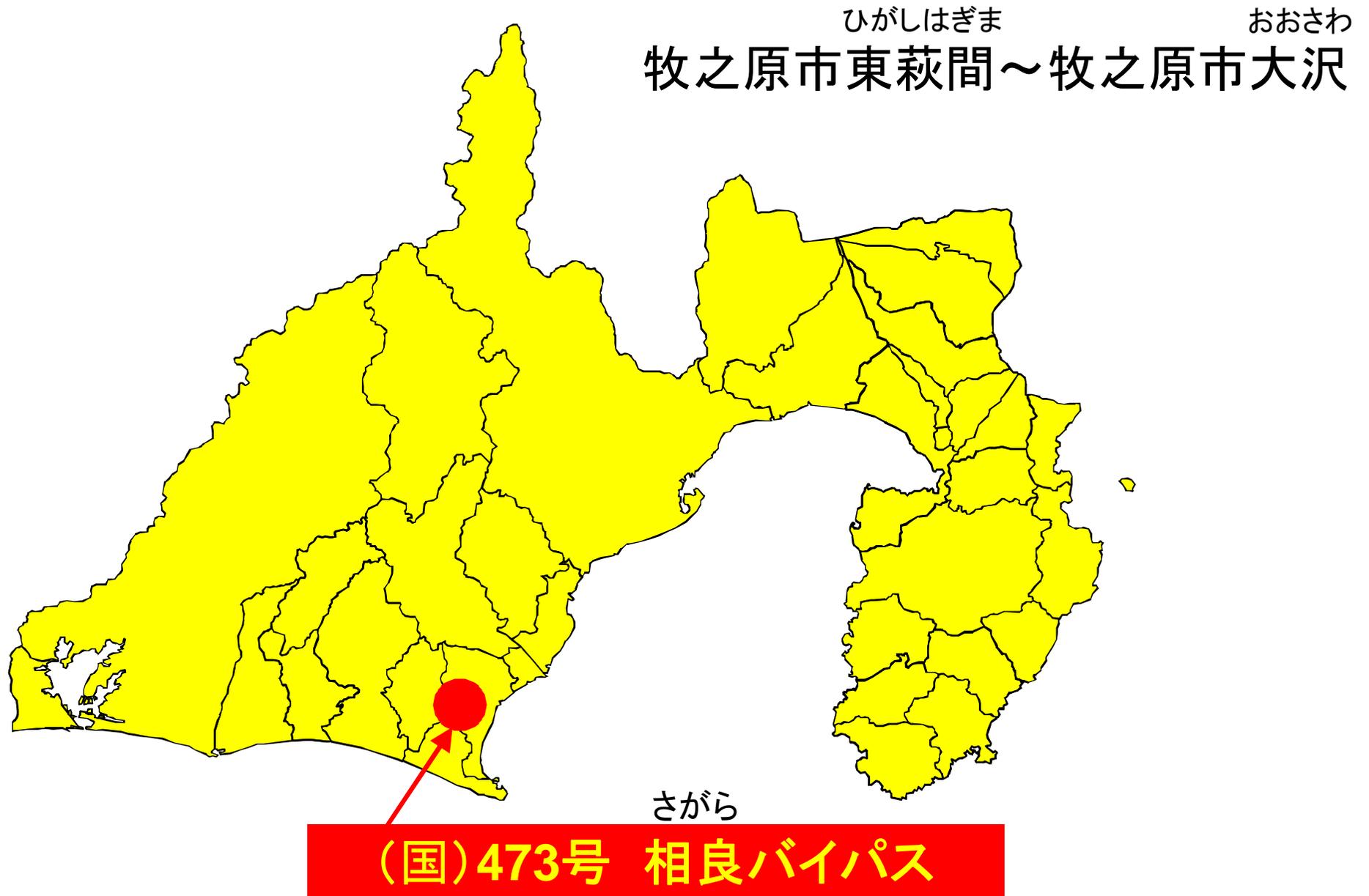
事業名	箇所名	頁
道路改築事業	一般国道 473号 相良バイパス	道路-1

平成28年度 公共事業事後評価(道路事業)

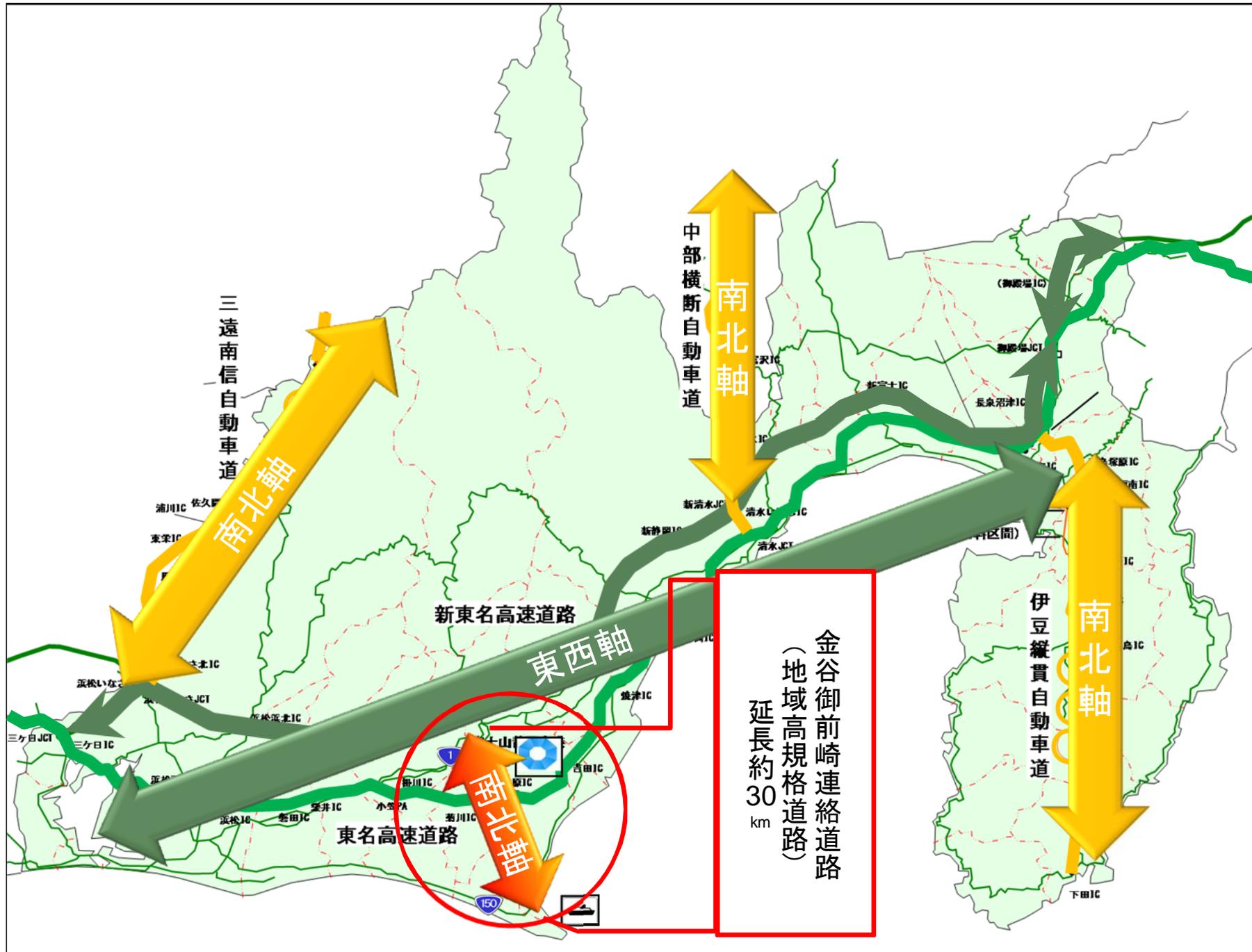
一般国道473号 ^{さがら}相良バイパス
(牧之原市東萩間～牧之原市大沢)

静岡県交通基盤部 道路局 道路整備課

事業箇所位置図



事業背景(県内交通ネットワークにおける南北軸強化)



1 対象路線及び事業の位置



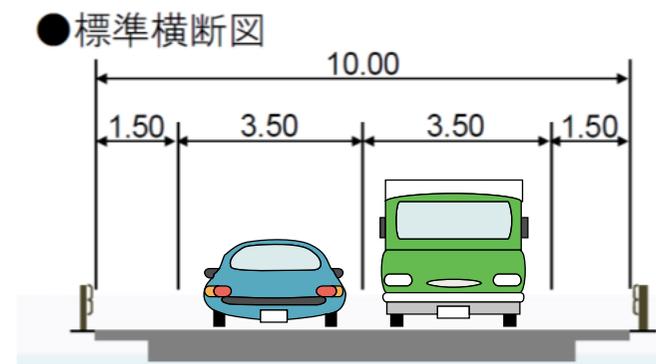
出典: 地理院地図(GSI Maps)

2 事業の概要及び目的

【計画概要】

- ・事業期間：昭和62年度～平成23年度
- ・事業延長：10.0km
- ・道路幅員：車道7.0(全幅10.0)m
- ・車線数：2車線
- ・全体事業費：252億円(再評価時：308億円)

標準横断図



【事業目的】

- ・県内交通ネットワークにおける南北軸強化
- ・産業観光活性化への寄与
- ・現道区間での安全性の向上

3 事業の投資効果(費用対効果)

	事後評価(今回)	再評価(H22)
総費用(C)現在価値換算	427.81億円	307.50億円
事業費	422.06億円	305.15億円
維持管理費	5.75億円	2.48億円

	事後評価(今回)	再評価(H22)
総便益(B)現在価値換算	746.74億円	330.49億円
走行時間短縮便益	581.29億円	343.41億円
走行経費縮少便益	117.07億円	-56.11億円
交通事故縮少便益	48.37億円	43.20億円

標示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。



	事後評価(今回)	再評価(H22)
費用対効果(B/C)	1.75	1.10

4 事業の投資効果

1 県内交通ネットワークにおける南北軸強化

■ 走行時間の短縮

2 産業・観光活性化への寄与

2-1 企業立地の促進

2-2 御前崎港の利用促進

2-3 富士山静岡空港の利用促進

3 現道区間での安全性の向上

■ 地域住民の安全性の向上：生活交通と通過交通の分離 通学の安全性

4 事業の投資効果

1 県内交通ネットワークにおける南北軸強化

■ 走行時間の短縮



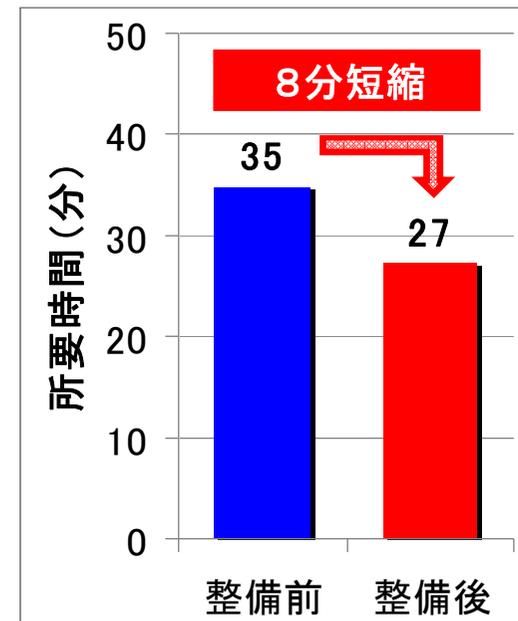
空港とのアクセス

富士山静岡空港



御前崎港

35分→27分に8分短縮



4 事業の投資効果

1 県内交通ネットワークにおける南北軸強化

■ 走行時間の短縮

2 産業・観光活性化への寄与

2-1 企業立地の促進

2-2 御前崎港の利用促進

2-3 富士山静岡空港の利用促進

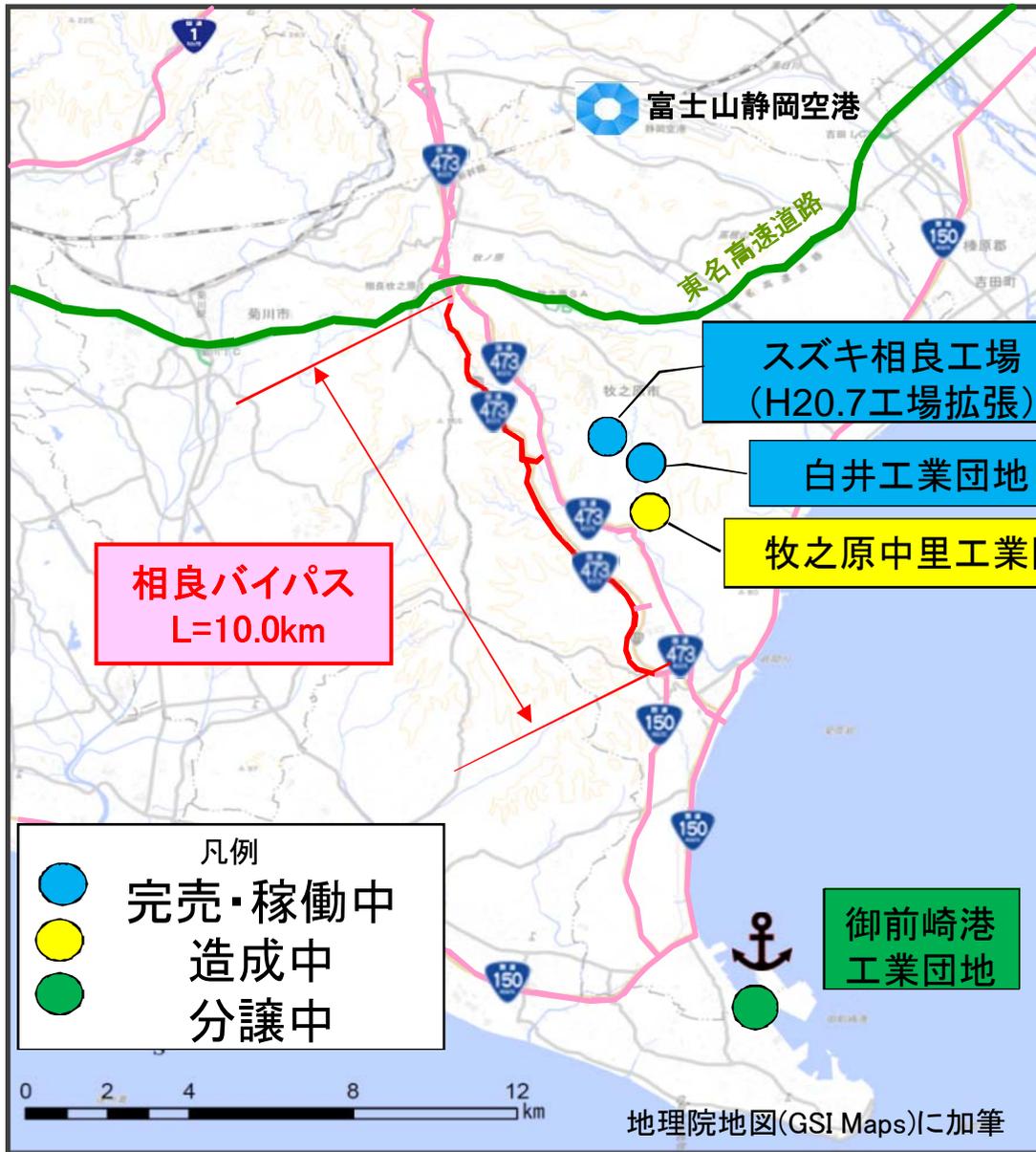
3 現道区間での安全性の向上

■ 地域住民の安全性の向上：生活交通と通過交通の分離
通学の安全性

4 事業の投資効果

2 産業・観光活性化への寄与

2-1 企業立地の促進①



【稼働中】
スズキ相良工場
白井工業団地

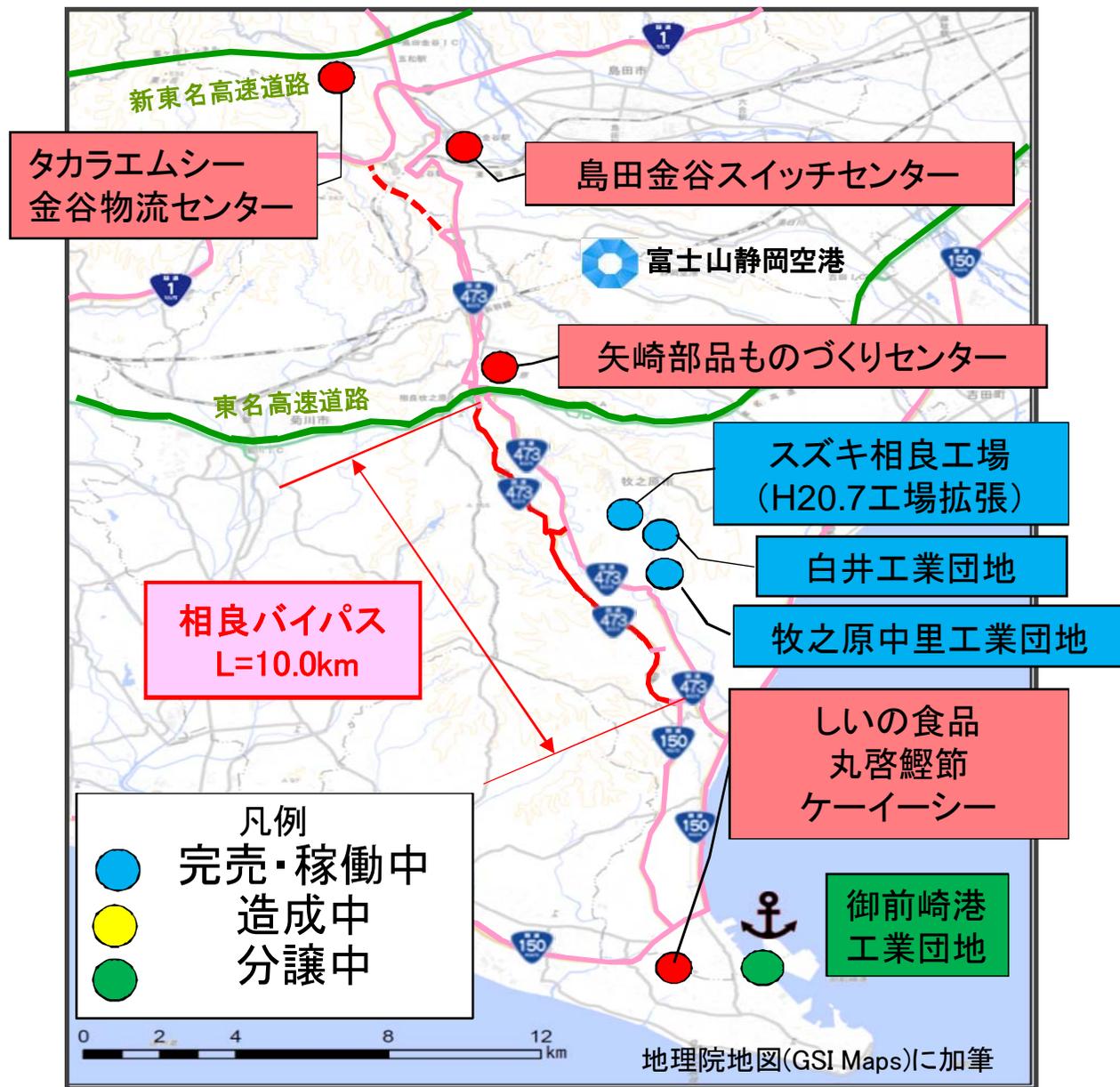
【造成中】
牧之原中里工業団地

【分譲中】
御前崎港工業団地

4 事業の投資効果

2 産業・観光活性化への寄与

2-1 企業立地の促進②



【新規進出】

矢崎部品ものづくりセンター

・平成24年、静岡県内に点在する複数拠点を集約し、「ものづくりセンター」を設立。

島田金谷スイッチセンター

・平成26年10月、島田市金谷河原に鴻池運輸株式会社がスイッチセンター(約4,600㎡)を新設。

タカラエムシー金谷物流センター

・平成26年、島田市志戸呂に株式会社タカラエムシーが物流センターを稼働。

丸啓鯉節

・平成28年1月新規稼働

ケーイーシー

・平成26年、将来移転を見据え用地取得

しいの食品

・平成29年新工場完成予定

4 事業の投資効果

2 産業・観光活性化への寄与

2-2 御前崎港の利用促進

相良IC バイパス部

相良牧之原IC

至 相良牧之原IC

移



- 輸出
- 輸入
- 移出
- 移入



内加増加入増加増加(長)

資料: 御前崎港要覧2015

4 事業効果(産業・観光活性化への寄与)

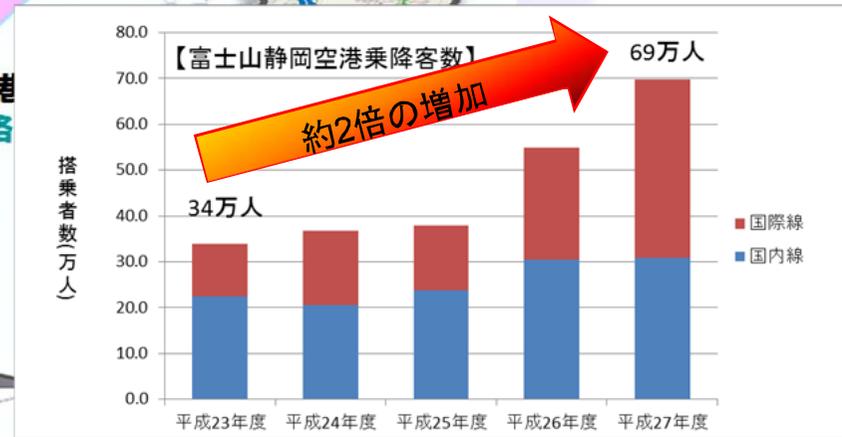
2 産業・観光活性化への寄与

2-3 富士山静岡空港の利用促進

富士山の世界遺産登録
【平成25年6月22日】



富士山静岡空港の搭乗者数



出典:静岡県HP

新規路線の就航、空港の乗降客数の伸びなど、
明るい話題が多い

今後も空港と世界遺産・富士山をはじめとした各観光地への
アクセス道路として利用の増加が予想される

4 事業の投資効果

1 県内交通ネットワークにおける南北軸強化

■ 走行時間の短縮

2 産業・観光活性化への寄与

2-1 企業立地の促進

2-2 御前崎港の利用促進

2-3 富士山静岡空港の利用促進

3 現道区間での安全性の向上

■ 地域住民の安全性の向上：生活交通と通過交通の分離
通学の安全性

4 事業の投資効果

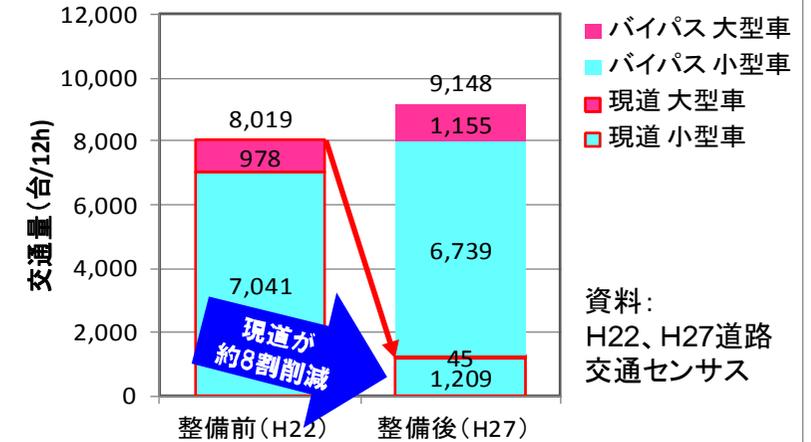
3 現道区間での安全性の向上

■ 地域住民の安全性の向上

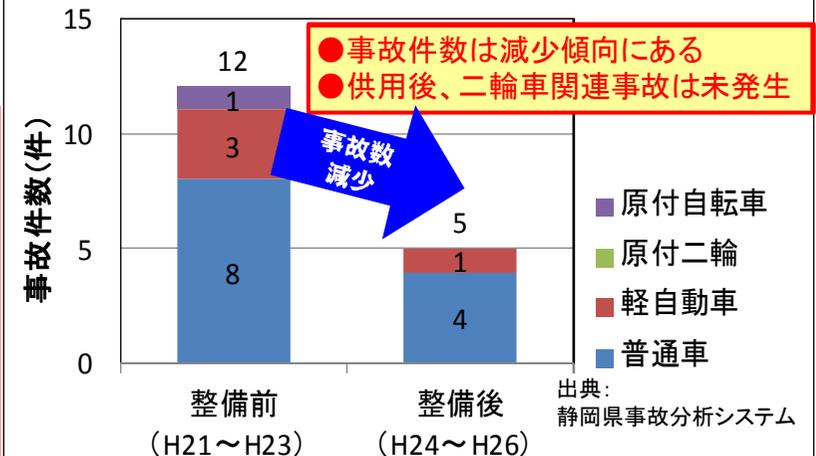
現道から通過交通や大型車の減少により、地域内の生活者(通勤・通学等)の安全性が向上



■ 現道とバイパスの交通量の変化



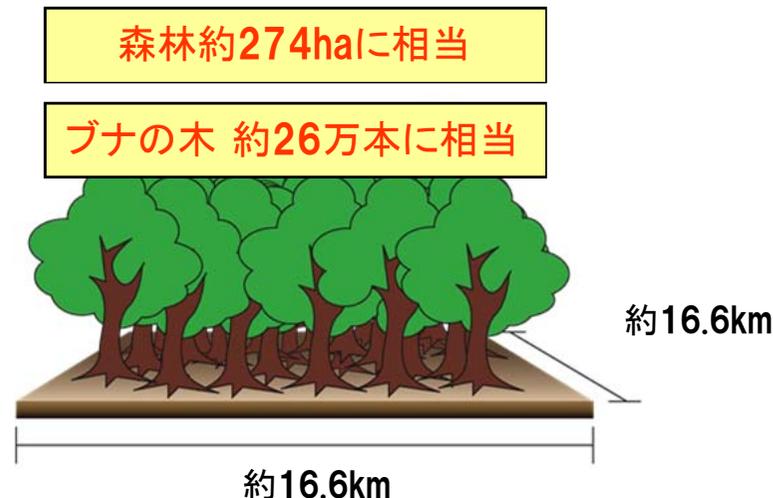
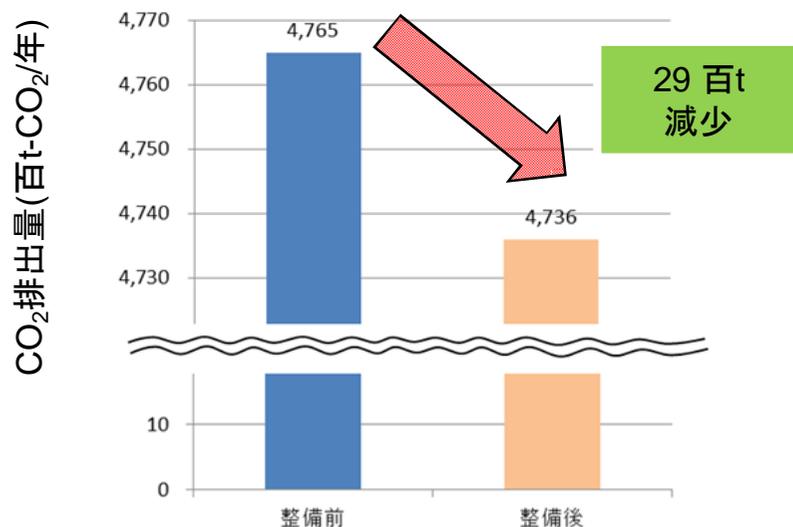
■ 一般国道473号における事故件数



5 事業実施による環境の変化

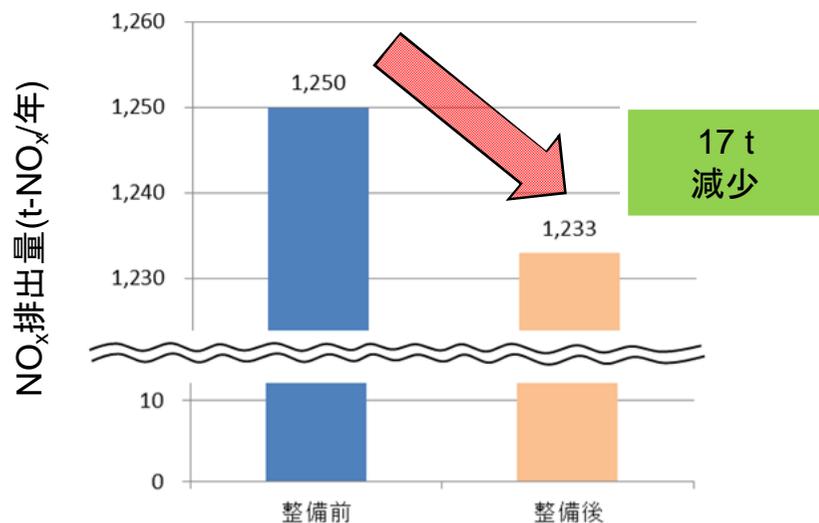
CO2をはじめ、NOx、SPMも減少し、環境改善が図られている

<CO2排出削減量>

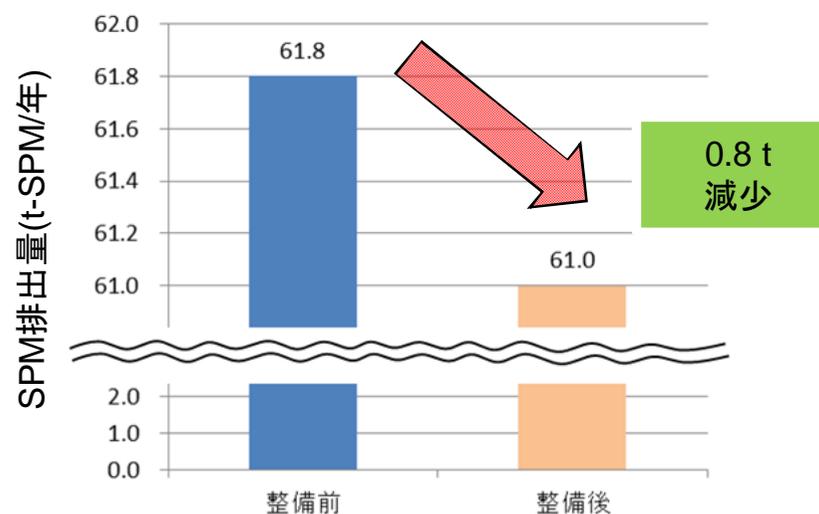


※森林によるCO₂吸収量は、10.6t-CO₂/ha・年として換算
(出典:「土地利用、土地利用変化及び林業に関するグッド・プラクティス・ガイダンス(優良手法指針)」より)
※ブナの木1本分のCO₂吸収量は約11kg-CO₂/年として換算(独立行政法人 森林総合研究所試算)

<NOx排出削減量>



<SPM排出削減量>



※交通量推計結果からの算出 H42時点整備あり・整備なしでの比較値

6 対応方針(案)

本事業により、

- 県内ネットワークにおける南北軸が強化された
- 需要の高まる富士山静岡空港へのアクセスや御前崎港へのアクセスの利便性が向上し、企業立地の促進もみられた
- 地域の安全性の向上効果もあった

事業効果は発現しており、改善措置の必要はない